

様式 2

会議結果のお知らせ

- 1 開催した会議の名称 平成27年度第2回大分県スポーツ推進審議会
- 2 開催日時 平成27年6月8日(月) 15時00分から16時30分
- 3 開催場所 大分センチュリーホテル2階 桜の間
- 4 出席者(委員) 谷口会長、松本副会長、角山副会長、牧委員、木津委員、青野委員、小野委員、笹原委員、土江委員、土谷委員、岩本委員、石崎委員、銅城委員、高司委員、安部委員、丸山委員、(16名/19名)
(欠席) 渚委員、岩尾委員、村上委員
(陪席) 上田県体育協会事務局
(事務局) 工藤教育長、蓑田体育保健課長、井上体育・スポーツ振興監、石井課長補佐、飛弾課長補佐、栗林課長補佐、富賀見主幹、佐保主幹、安部主幹、笠木指導主事、仲摩指導主事、安心院指導主事、島畑指導主事
(その他) 政策企画課 神崎課長補佐、小春主事
- 5 公開、非公開の別 公開
- 6 傍聴人数 0名 (マスコミ9社)
- 7 議題
 - (1) 県立屋内スポーツ施設の建設に関する意見について
 - (2) 今後の県立総合体育館のあり方について

8 主な内容

谷口会長から議事(1)に係る意見書案について説明の後、審議し承認を得た。また、議題(2)について、事務局から説明資料により県立総合体育館の状況を説明した後、意見を求めたが、継続審議となった。

審議会終了後に、谷口会長から工藤教育長あて意見書が手交された。

議事の概要、委員からの主な質問・意見は、次のとおり。

議題(1) 県立屋内スポーツ施設の建設に関する意見について

- 答申に先立つ意見書と、答申との関係はどうなるのか。最終的には答申をするとしても、本日の意見書を、教育委員会としても重要なものとして取り扱って頂きたい。
- 県立総合体育館の明確な方向性は、本日だけで結論づけできないと考えている。諮問に対する

明確な答申とはならないと考えているので、意見という形にさせていただいた。

- 国際大会とは、ラグビーW杯を指すのか。そうであれば、武道を中心とした屋内施設なのに整合性がないので、もう少し詳しくしたほうがよいのではないかと。
- 武道を中心とした屋内施設について意義があるわけではないが、機能不足が深刻化しているという文言について、どういった機能にするか、どういったものを作るかといったことが重要である。そのためには、関係者の意見を聞き本審議会で審議するべきではないかと。
- 機能については、財源と深いかかわりがあり、予算との関係面で調整をしなければならない。柔道剣道が機能するのは当然。使いやすさやコスト面についても検討していく。本日、意見とさせていただいても、尊重していくことに変わりない。総合体育館の議論もあるので、最終的なものではないという考えを持っている。
- 今後のスケジュールとして、補助金等のこともあるのであろうが、今後の概要を教えてもらいたい。新しいものを作る、総合体育館のあり方をつけて答申するようになると思うが、答申はいつごろになるのか。
- W杯までの完成となると、設計に1年、完成に20数か月を考えると時間的な猶予は無い。答申に関しては、大分市アリーナ構想との調整等が必要と考えるので、あと数回議論していただき最終的な答申を出すという形を考えている。
- 駐車場の整備を先行していただかないと、日本代表やイベントとの関係から駐車場が不足するという状況に陥ってしまう。駐車場の整備を考慮した設計も来年度予算に組み込んでもらいたい。そうなれば、答申を早くすることも考えないといけないのではないかと。
- 時間がないから急がないといけないという考えはよくない。W杯のために造るものではなく、あくまでも、武道を中心とした屋内スポーツ施設である。造るならばしっかりしたものとするため、スポーツ団体や委員の意見をもっと聞くべきだ。
- 教育長への26万人の要望に対して、今回の意見書が回答という形をとるのが大切であるので、26万人の思いに対する審議会の意見として出すというのはどうだろうか。
- 答申までに、今頂いている、駐車場、施設の機能性等々など、本審議会で議論を深めなければいけない。
- 財源の問題はしっかり考えなければいけない。財源という制約に向けては、W杯は、国も動くので、大分県としてもしっかりこれを確保するため、W杯までに建設する必要がある。機能面については本審議会で置いて継続議論することを踏まえつつ、早期着工というのは県として望んでいるので、文書については国際大会を修正することとして、趣旨の方はこのままでご理解いただきたい。
- 「県立屋内スポーツ施設の建設に関する意見について」承認いただきたい。委員承認。

議題（2）今後の県立総合体育館のあり方について

【議長】中核施設としての機能面、重要性、ランニングコストなどから意見をいただきたい。おとしどころは、たとえば、①県立総合体育館の建て替え、②改修、③大分市への移管、④その他、現実的には①～③ですが、一人一人の意見を頂きたい。

- 大分市にアリーナ構想があるが、同じような屋内施設が市と県で重なるのは二重になり必要ない。総合体育館の場所は素晴らしいので、今後も日常的な施設として考えてほしい。
- 総合体育館を健康づくりなど生涯スポーツの観点でみると、研修室やフロアも、現在のものです。

は使いにくい。

- 総合体育館の中に医科学的なものをという提言もあった。九州内にも医科学センターが入っているところもある。総合体育館は老朽化が進み、研修室も使いにくい。医科学構想は、国体前に頓挫したことからも、生涯スポーツに生かせる県民の方が納得する建物を考えていかなければならない。
- 生涯スポーツに生かせる総合体育館は残しつつ、市のアリーナ構想もプラスできればよいのかなと思う。ランニングコストが心配であるので、市への移管がベストなのではないか。
- 耐用年数が50年あるのであれば、アメニティー部分など使いやすいように改修するのがいいのではないか。
- 大分市のアリーナ構想との調整に加え、総合体育館は柔剣道場、託児室の改修をしてほしい。また、ランニングコスト等、複合的に考えるべきなのではないか。
- 大分県はスポーツ施設の整備は不十分であり、新しいものができたから、古いものはいらぬというのはおかしい。総合型クラブの活動施設として、まだまだ設備を充実させるべき。また、トレーニングを通じた健康づくりは、医療費の削減になる。21世紀に向けたスポーツ施設は、見るだけのものではなく活用できるものとして考えるべきである。
- あり方検討委員会で議論しているようなので、このままの議論で継続していただきたい。
- 2020オリパラなどのトップスポーツから日常のスポーツまで、いろんなニーズにこたえるのは必要。健康づくりも必要。総合体育館は機能性を持たせて残し、ハンディを持つ人からトップアスリートまでユニバーサルに活用できる全国でもトップの施設を目指してほしい。
- 総合体育館は、なかなか予約ができない状況であり、新しい施設ができるとありがたい。飽和状態解消の面から、総合体育館は改修し、県民が多様に利用できる施設になればいいと思う。
- 新施設ができた場合、ほとんどの大会がそちらにいつてしまい、総合体育館は今以上に大分市民の施設となる。改修費用やランニングコスト、大分市のアリーナ構想等を考慮し、総合体育館は大分市に譲渡すべきであると考える。
- 総合体育館は、中規模施設として非常に有効である。あり方検討委員会の提言に沿って1階部分を改修して残してほしい。県民にとっては、市か県かはあまり関係ない。十分大分市と連携してもらいたい。
- 建て替え、改修、移管いずれにしても、子どもたちが利用しやすい施設にしてもらいたい。
- 大分市のアリーナ構想は全く進んでいない。総合体育館の場所に大分市のアリーナができるのがベストと思うので、大分市との話し合いを進めてもらいたい。
- 屋内の施設については早急に話を進めていくべき。総合体育館の建て替え、改修、移管については、大分市の構想を持っているか十分に話し合い、県としての考えを出していくべきである。総合体育館は、財政面もあるが、スポーツ医科学センター等の機能を持たせ改修してもらいたい。
- 大分市アリーナ構想の展開がどうなっているかを大分市民も知らない。県として、新施設・総合体育館のあり方について、また、大分市との連携のあり方について話していただき、次回の審議会で報告してもらいたい。
- 大分県はスポーツの拠点となる施設が少ない。新施設ができ総合体育館が残れば活動しやすくなる。活動場所があれば生涯スポーツ社会の実現に向け前進し、医療費削減等にもつながると考えるので、スポーツ施設としてだけでなく多面的に検討してほしい。

- 総合型の観点から、多くの施設があるというのは、活動のためには素晴らしいことである。大分市は施設が不足している。プレーヤーのシンボルとなるような施設があってもよい。医療費削減の問題からも新施設及び総合体育館のあり方について考えてもらいたい。
- 県民がスポーツを身近に感じられる施設とは、スポーツのことはあそこに行けば全部できるという施設だと考える。スポーツのメッカとなる施設をつくってもらいたい。

9 会議の資料名一覧 平成27年度第2回大分県スポーツ推進審議会
県立屋内スポーツ施設の建設に関する意見について
説明資料

10 問い合わせ先 担当課 大分県教育庁体育保健課
電話番号 097-506-5645